

第3期食と農の県民条例基本計画策定に係る農業者との意見交換概要(途中経過)

I 意見交換の目的

農業者との意見交換で出された意見を、第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画策定の参考とする。

II 実施期間

令和元年11月から令和2年4月まで

III 対象者・意見交換の方法

大河原, 仙台, 大崎, 栗原, 石巻, 登米, 気仙沼の各地域において, 水稲, 大豆, 園芸, 畜産などの部門で営農する農業者を選定

農業政策室の職員が農業者を訪問し, 以下の設問項目について対面で聞き取る。

IV 内容

1 属性

(1)地域, (2)性別, (3)年齢

2 設問項目

(1)10年前～現在の経営の変化, (2)現在の経営の課題, (3)現在, 好機(チャンス)だと思っていること
(4)今後10年間の経営の意向, (5)県の支援への期待, (6)今後重視する施策

V 意見交換の概要

令和元年11月から令和2年1月末までに実施した仙台，大崎，栗原，石巻，登米地域における40経営体の意見交換内容をとりとまとめた。(大河原，気仙沼地域は，今後実施予定)

1 属性

(1) 地域

地域	経営体数
仙台	5
大崎	6
栗原	9
石巻	10
登米	10
計	40

(2) 性別

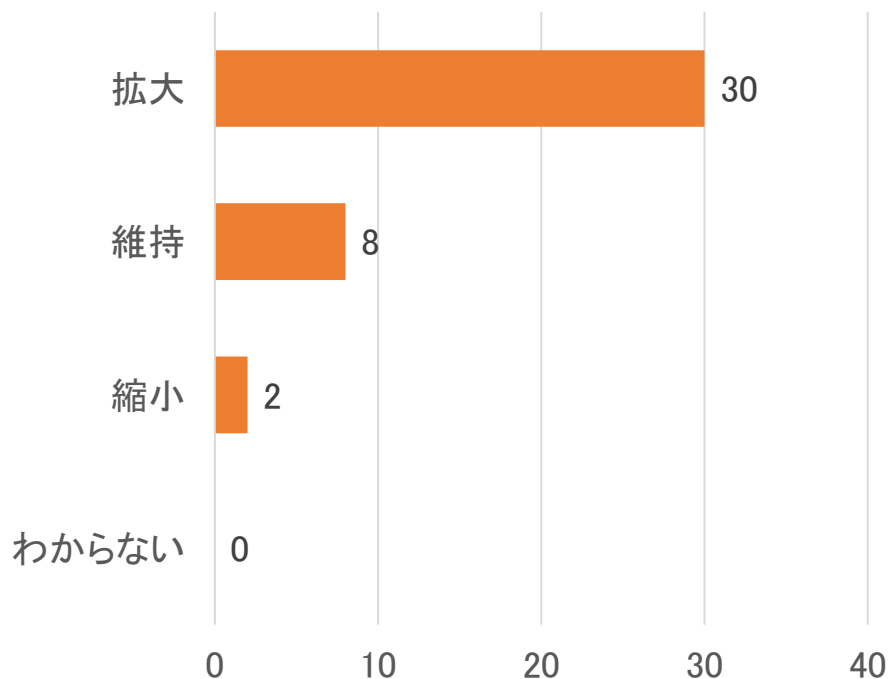
性別	経営体数
男	35
女	5
計	40

(3) 年齢

年齢	経営体数
～20代	0
30代	7
40代	8
50代	4
60代	12
70代～	2
未回答	7
計	40

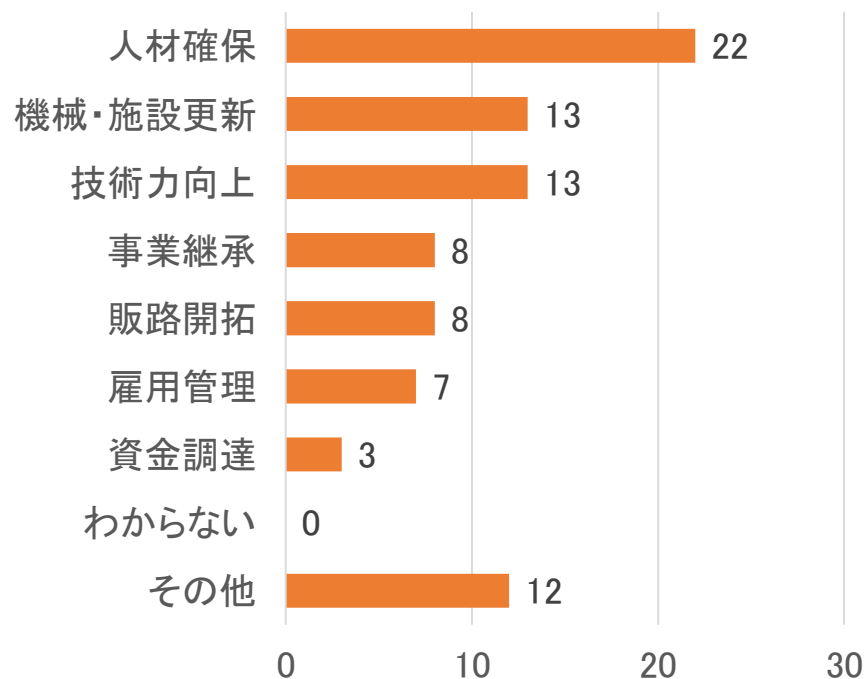
2 設問項目

(1) 10年前～現在の経営の変化



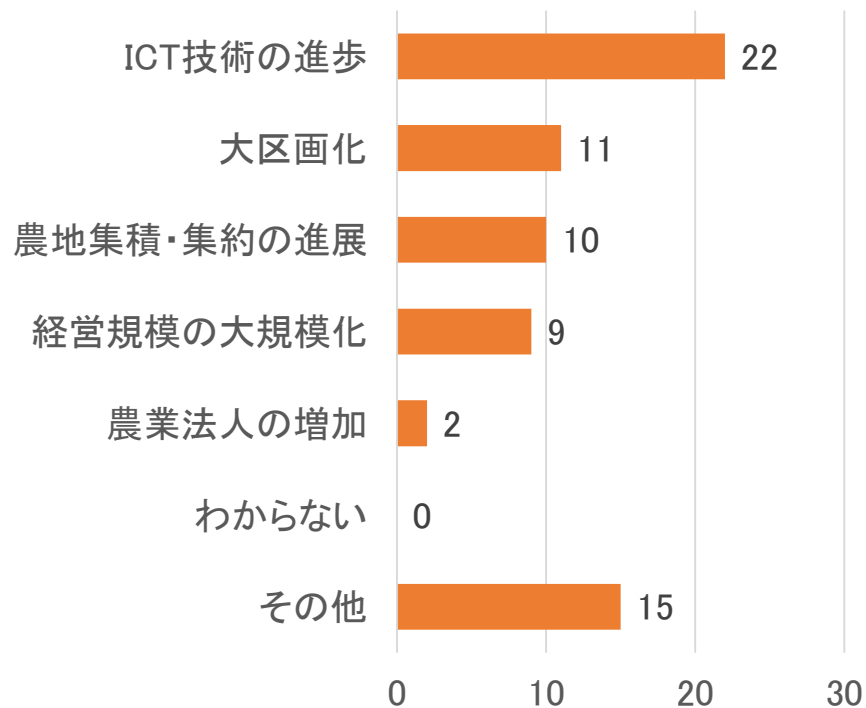
- 拡大 土地利用型部門の拡大, 園芸部門の導入, 母豚の増頭, 6次産業化への取組 など
- 維持 生産性を向上させる など
- 縮小 水稻部門を縮小 など

(2) 現在の経営の課題(3つ以内で選択)



- その他
ICT技術の有効活用, ほ場の区画が小さい, ほ場が遠く農業機械の移動が大変, 労務管理, 農地の集積, 品目の選定, 規模拡大, 汚水処理がネックで規模拡大できない など

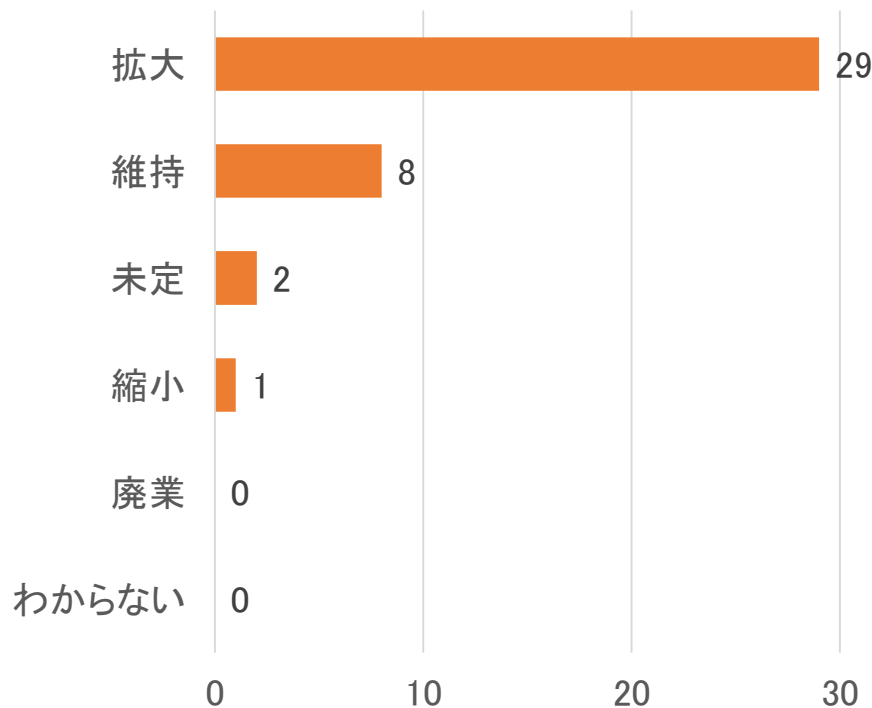
(3) 現在, 好機(チャンス)だと思っていること
(3つ以内で選択)



○その他

オーガニック市場が広がりを見せている,
法人化や6次産業化, マーケットの変化,
農家が減っていることはチャンス,
離農が多くなり, 農地を手放す人が増えている,
子牛価格の高騰, 賞をとると収益増加 など

(4) 今後10年間の経営の意向



○拡大

既存部門の規模拡大, 6次産業化への取組

空きハウスを活用し園芸部門の拡大 など

○維持

収量増加, 生産性, 品質向上を目指す など

○未定

規模拡大してメリットがあるか見極めたい など

○縮小

水稻部門を縮小

(5) 県の支援への期待

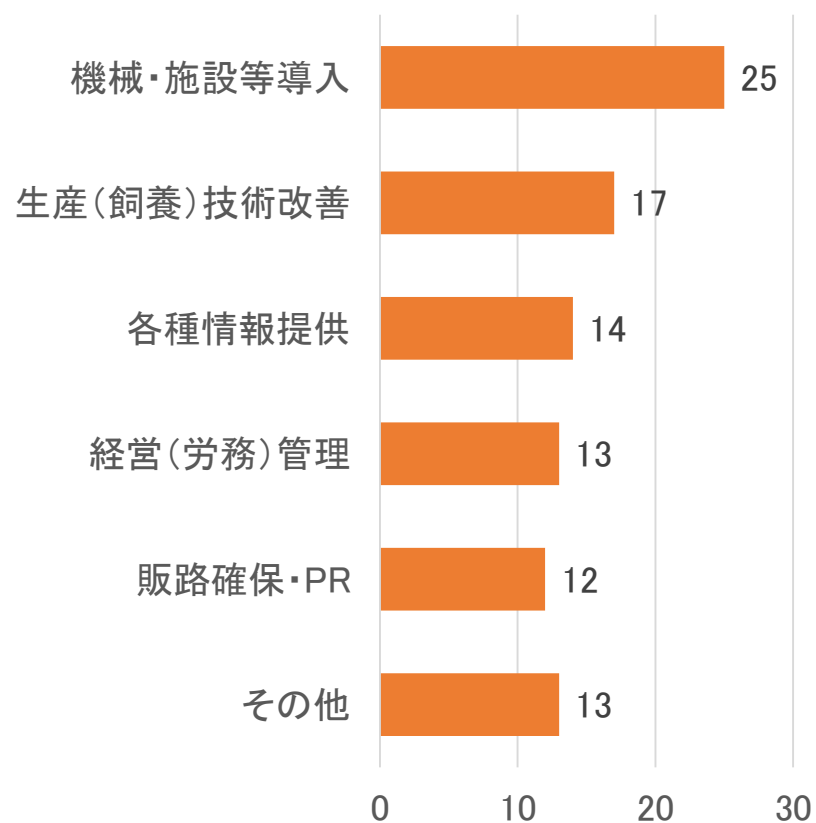
1) 期待する・しない

期待する: 40

期待しない: 0

わからない: 0

2) 支援の内容(複数選択可)



○その他

ほ場の大区画化

ほ場集積・集約化

農地条件の改善

他産業との連携

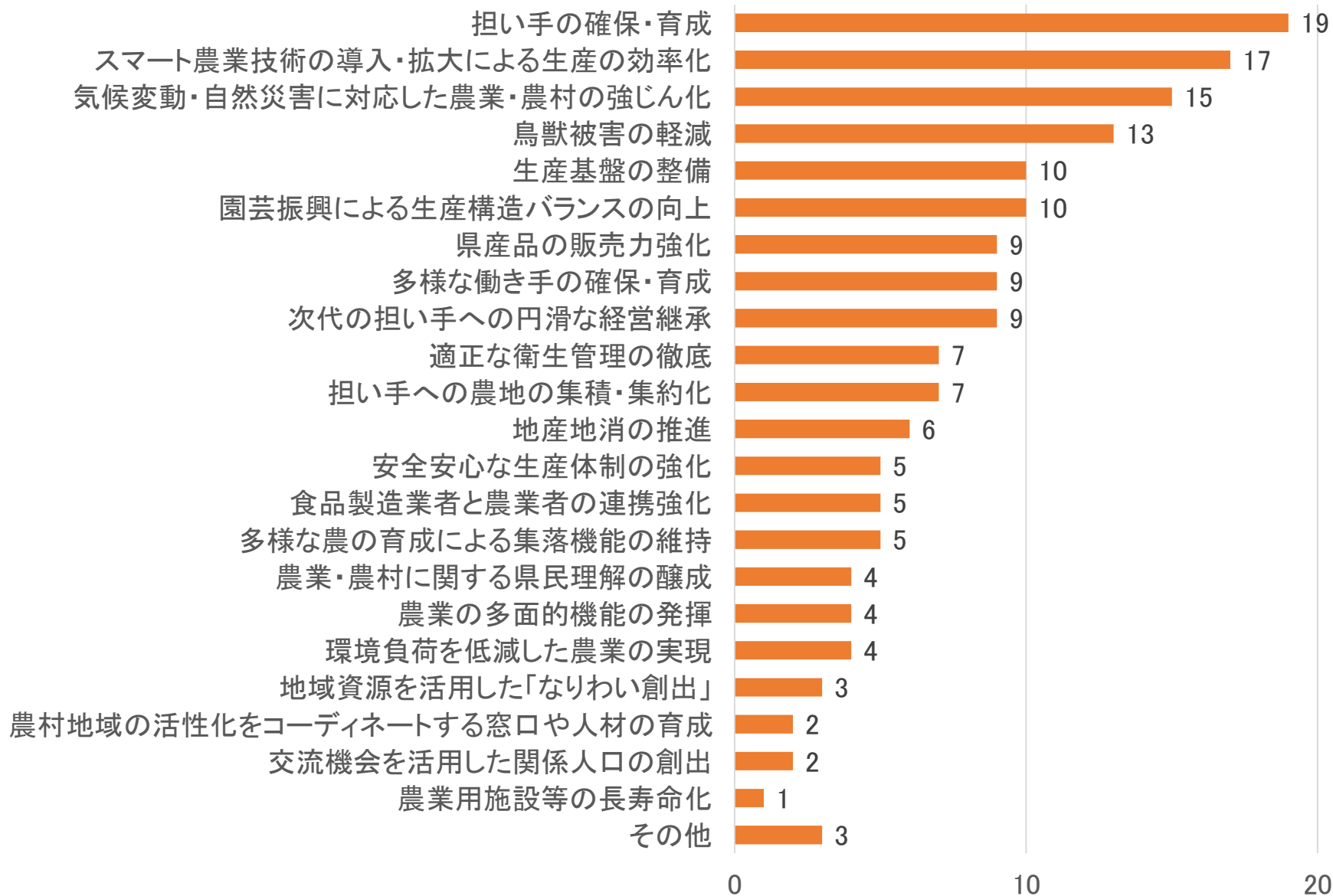
農地集積のコーディネート, 農業参入を進める環境整備

6次産業化

次代の農業を継承する若者と知り合える「場」の設定

汚水処理や埋却地確保のサポート など

(6) 今後重視する施策(5つ以内で選択)



その他 新技術の開発・普及, 栽培技術支援, 安心して生産できる収入補填の仕組み